

[第18回]

NCGG-R1 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

質量分析を用いたアルツハイマー病の バイオマーカー探索

共同利用推進室

渡邊 淳 室長

2017年3月14日(火) 16時30分～
第1研究棟2階大会議室

アルツハイマー病発症前の徴候を捉えることが出来れば、予防的介入を行うことで、高齢者の認知能やADL低下を抑制することが期待できる。しかしながら、現在十分な早期診断法は確立されていない。また、アルツハイマー病治療薬に関しては、その多くが有効な結果が得られなかったとして、臨床試験が中止となっている。その原因の一つとしてアルツハイマー病発症前に既に老人斑と神経原線維変化といったアルツハイマー病の病理が形成されており、たとえ老人斑の形成が抑えられたとしても、既に形成された神経原線維変化によって、その進行が抑えられないという可能性が考えられる。今後より早期、つまりプレクリニカルでの臨床試験が行われることも予想され、アルツハイマー病発症前の徴候を捉えることの重要性はよりいっそう増すものと考えられる。血液でのバイオマーカーが確立されれば、画像診断と比較して、安価で迅速に診断できることが期待される。本研究発表会では、質量分析を用いたアルツハイマー病の血液バイオマーカーの探索について報告する。

座長：竹下 淳